

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	<h1>会 報 第 196 号</h1>	2017年11月27日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	----------------------	---

## 1. 活動報告（事務局 記）

—10月27日（金）稲の脱穀を28日実施する予定でしたが、天候の都合で、急きょ実施しました。8名が参加し、無事終了しました。こいだ粳（もみ）12俵（かます）をは西村会員に依頼し強制乾燥します。

—10月30日（月）ビオトープのもち米の粳摺り（別称 白ひき）を8時半から10時で行いました。西村会員の御主人には乾燥や白ひきで大変ご協力を戴きました。吉富会員・西村会員と原田の3名の応援でした。収穫量は3俵半（210kg）でした。昨年は4俵でした。稲作としては 田植えから順調に生育し、7月末からの中干し時期には稲の株も多く大変良くできていて今年是最t高の収穫量となるはずでしたが、奥手品種を早目に刈り取った事と、10月初めに病気になった事でシイラや小こめが沢山出来て通年どおりの収穫量になりました。

—11月5日（日）参加者14名で以下の作業を実施しました。

- ・湿地帯周辺の草刈りおよび取り除き
- ・脱穀で発生した稲わらの焼却
- ・ヨケジの浚渫
- ・タラの木の手入れ
- ・蓮田の除草

—11月7日（火）二俣瀬ふれあいセンターおよびビオトープにて、宇部工業高校の出前講義および野外作業を実施しました。講義の内容は、生態系も保全に関するもので、関根事務局長が講師をしました。参加したのは、生徒40名、引率教師5名で、以下の活動をしました。

9：20 開会行事、9：30～11：30 出前講義

昼食11：30～12：30、12：30から里山ビオトープ移動

13：00～15：00作業実習、15：10 ビオトープ駐車場から帰校

本会から会員4名（関根、管、河本、前田）が講義、野外作業の補助をしました。

野外作業においては、ヨシ等の除去をしましたが、刈り取った草が須賀河内川沿いに残っています。

—11月25日（土）親子自然観察隊は里山の暮らしを体験してもらいました。

- ①千歯扱き（せんばこき）を使って脱穀、 ②脱穀した粳を唐箕（とうみ）で風選別
- ③藁を叩いて柔らかくし、縫って輪飾りとしめ縄作り
- ④焙烙（ほうろく、素焼きの浅い土鍋）でシイの実と大豆を炒って、シイの実を食べ、  
大豆は石臼で粉にして団子にまぶして食べる
- ⑤昔の農具（篩、天秤量り、升、臼、竹細工品など）の展示と説明

参加者は、親子自然観察隊24名（親12名、子12名）と会員15名でした。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

### ◎来訪者

予定はありません。

### ◎行 事

- 12月9日（土）収穫祭（餅つき）準備、役員会議
- 12月10日（日）収穫祭（餅つき）、親子自然観察隊解隊式
- 12月23日（土）維持管理・年末懇親会

## 3. 来訪者の声

今回はありません。

## 4. 会員の声—1 「忘れ物の気持ち」（原田満洲夫 記）

6月17日 24時間テレビ「愛は地球を救う」活動収録の折草原ゾーン須賀河内川下の水堰の所に置き忘れてあったピンクのキティちゃんマーク入り長靴いまだ使い主が現れず一人静かに東屋の棚の上で待っています。

せっかく新しく買っていただき初めて卸されたものと思われるもので、当日会の皆様に問い合わせると、どなたか親子でその場所で水遊びをされていた方が居られたとか？

通常の活動日でも帽子・合羽・タオル・ジャンパー・手袋・長靴等々忘れられていることが多い。活動日の夕刻には犬の散歩を兼ねビオトープへの散策を行う事が多いが、写真の様にいまだ名乗りを上げてもらえない忘れ物（写真）がある。

特にキティちゃんのゴム靴は メーカーはアサヒ・大きさ15が寂しく待っています。



左より手袋・キティちゃんの長靴・帽子・手ぬぐい・タオル

## 会員の声—2 「ビオトープのこれからを考える」 (管 哲郎 記)

今年の行事も12月のお餅つきと解隊式を残すだけとなりました。11月の「里山の暮らし」も無事終了しました、皆様のご協力感謝いたします。

11月7日に「宇部工業高校」の生徒先生合わせ45名、ビオトープの除草作業を行ってくれました。川の中の“ヨシ”の刈り取り、胴長をつけて池の中の雑草除去、などです。おかげさまで私たちビオトープ会員の数回分の作業が片付き、大変ありがたかったです。そのほかには毎年7月ごろには「中国電力」の新入社員研修として、午前、午後それぞれ20名づつ総勢40名の作業員が来られ、ビオトープ内の整備を行っていただいています。

このような外部からの応援があれば、管理作業がたいへん楽になります。それでもまだまだやることは山のように残っており、12月～3月は毎月2回寒風の中で会員は場内のエコ・アップ作業を行わねばなりません。

ビオトープをつくる会会員は2016年(平成28年)では40名強在籍していますが、月2回の管理作業に毎回出席される会員は10名前後です。しかも、出席してくれる会員はほぼ決まっており、40数名の内年1回でも出席していただければまだ気分的にありがたいのですが、全く出席されない会員もおられますので、これからの維持管理は大変困難なものになると思われまます。会員に登録された以上、やはり1年に1度くらいは管理作業に出席していただきたいと考えます。

又今回、親子自然観察隊のご父兄の方々には急なお願いをいたしました。「里山の暮らし」の行事の後、お弁当持参で午後、片付け作業を行ってください、というものでしたが、ありがたいことに5家族より参加申し込みをいただきました。本来なら観察隊のご家族にお願いする時期として、気候が良く昆虫がいる時期にお願いしたいと考えていましたが、今回は急なお願いになってしまいました。子供たちに負担のかからない時期で、居残ってもその間ビオトープで楽しめる時期が一番良いと考えていました。

しかし、「ビオトープをつくる会」としても頑張ってください、観察隊に負担のかからないようにと場内の片づけを終えていただきました。そのおかげで今回の臨時作業は中止となりましたが、5家族ものご協力がいただけ驚きました。有難うございました。

観察隊隊長として、隊員のご家族にも時間の許す限りで結構です、エコ・アップ作業や片付け作業をお手伝いしていただけたらと考えています。まずは子供たちのことを考え、このビオトープを絶やしたくありません。強制出席にたくはありませんし、あくまでも自発的参加です。最低年1回をお願いしたいと考えていますが……。これは観察隊隊長としてのこれからの意見です、皆様のご意見をお寄せください。

ビオトープの維持管理が年々追われるようになってきています。人数が多ければ作業はかどり楽ですし、月1回でよくなります。今は逆に月3回行わねば追われてしまう状況です。会員の高齢化がやはり主な原因であることは間違いありません。私たちも頑張りますが、皆様のご協力も期待いたしております、これからもよろしく願いいたします。

## 5. 親子自然観察隊 「里山の暮らし」 (管 哲郎 記)

今日は晴れましたが、朝の気温は低くすっかり冬の気候を迎えたようです。それでも日中気温も上昇し、風もなく快適なイベント日和となり、皆さんも十分に楽しんでいただけたようです。

里山の暮らしとして、それぞれの行事を体験していただきました。千歯によるイネこぎ、トウミによるイネもみの選別、輪飾り作り、石臼による粉ひき（大豆）、椎の実の試食、昔の生活道具の紹介と説明、最後に米団子をきな粉もちでいただいて行事を終了しました。

原田会長指導による輪飾り作りの前に、輪飾りの由来が話され、さらに全員にサンプルの輪飾りが配られ、ウラジロ、ユズリハ、小ミカンも用意され、お正月に飾る見本をまずみんなで作りました。そのあと、親子で輪飾り作りが行われ、悪戦苦闘して何とか全員完成したようでした。中には2個の輪飾りを時間内に作ってしまう隊員もいて驚きました。

今年は椎の実が大きく、土鍋で炒って食べましたが以外においしかったようで、大人も子供もポリポリとたくさん食べていただきました。また、昔の生活用具の紹介と説明では、現在殆ど見ることのない懐かしい生活道具がみられ、子供たちより大人のほうに人気があったようでした。石臼も全員が体験し、粉づくりが分ったようで、良い体験がなされたと思われました。最後に全員できな粉もちをいただいて、本日の行事を終了しました。

今年は、原田会長により全員にきれいに作られた“輪飾り”が配られました。それに加え、原田会員が今朝“ウラジロ、ユズリハ”を山に入り準備していただいたこと、“小ミカン”までいただき、大変ありがたく思いました。もちろん、おもち作りのためのかまど一式の準備、その他諸々の準備をしていただき、感謝感謝です。それに加え昔の用具がこんなにも残っているとは思ってもよらず、素晴らしいイベントになりました。提供していただいた会員の方々にも御礼申し上げます。



稲こぎを行う隊員たち



昔の作業用具



輪飾り作り



しめ縄作りの準備



6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(23) オナガアカネ *Sympetrum cordilegaster* (迷入種)

トンボ目 トンボ科

秋にユーラシア大陸から渡ってくるアカトンボで海岸近くの池や湿地、農耕地などで見られます。体長 36mmほどの小さなアカトンボですが、本土の赤トンボに比べ飛翔力が強く、一度逃がすとあっという間にどこかへ逃げてしまいます。特徴は♂♀の顔の部分が白いこと、♂は腹部先端部が膨らんでいること、♀は産卵弁が長いのがあげられます。

山口県では下関市、長門市の海岸部、萩市の相島や大島で見られます。しかしなかなか探すのは困難で、同じ場所にいつもいるとは限らず、毎年探すのが大変です。

2016 年は県内本土では見つからず萩市の島嶼（とうしょ）部で発見できました。また、珍しいことに腹が赤い♂型のメスが見つかり、県内初記録となりました、その他の赤トンボではマユタテアカネ、マイコアカネなどでたまに見られます。



オナガアカネ♂ (顔の部分が白い)



オナガアカネ♀



♂の腹部7節が膨らみ下に突き出ている



オナガアカネ♀の産卵弁 (長い)



♀オナガアカネ  
♂型♀  
(同色型)



マユタテアカネ♀の産卵弁

## 7. 会よりの連絡事項

- 1、収穫祭のお知らせの内容については25日の役員会議で詳細に検討され皆様に通達されますのでご協力をよろしくお願いいたします。
- 2、溜池土手・湿地帯河川側がイノシシや水漏れで崩れています。今後修復作業を頻繁に行うようになります。
3. 田んぼの粗お越しを近日中に行います。今年度の田圃の水平度がわるく中ほどと川側の一部に土もち作業も行なわなければ稲作作業に支障をきたします。  
粗お越しの時に少し費用が発生します。ご承知おきのほど。

## 8. 編集後記

周南の福川子どもクラブの活動で、防府市久兼のふるさと牧場に行きました。ここでは牛を山に放牧して下草を食べてもらい、山の手入れをされています。オーナーの山本さんやこれまでの多くの方々がされてきたように、福川子どもクラブの子ども達も植林をさせていただきました。午後からは、間伐や枝打ち等山の手入れの様子を見せて頂きながら、この手入れで出た木材や木の枝等を材料にして、各グループ毎に秘密基地を作りました。ふるさと牧場では、この夏にも講師を招いて、別の子どもたちを対象に山の活動をされたそうですが、その時のお話として、シイタケのホダ木の役目を終えた、朽ち木をくずしてカブトムシの幼虫と一緒に瓶に入れて置いていると、育っていく様子が観察できるよと教えていただきました。人間が里山の木を利用してシイタケを育てて美味しく食べ、役目を終えたホダ木は、虫たちの住処と食料となり、土に還っていくというお話で、二俣瀬ビオトープの観察隊でも体験させて頂いたら楽しいだろうな～と思いました。フィールドでは虫を見つけにくい寒くなってきた時期など、役目を終えたホダ木に虫がいるか観察し、新しいホダギの準備をすとか…。時期的な問題とかクリアできたらぜひ、いつかご検討頂きたい！です

( 大野 靖子 記 )